

## おおむねの評価で満足？

担任時代の私は、帰宅する前に教室に足を運び、教室の状態を確かめてから黒板にメッセージを書くことを日課にしていた。生徒のいなくなった後の教室は、生徒たちを知るための手がかりの宝庫です。真っ先に確かめたのがゴミ箱でした。

ゴミの量が目についた時は要注意です。当時給食後に掃除があり、本来は少ないはずのゴミが多くなっていったら特に丁寧に確かめました。小テストやプリント、牛乳パックやミカンの皮、使い捨てカイロ、ちぎって遊んだと思えない消しゴムの残骸、菓子や飴の包み紙、授業中回していたであろうミニレター、紙を丸めガムテープを巻きつけて作ったボール……思い出せばきりがありません。

そういうものが発見できた時には、学級の雰囲気や生徒の日常生活に黄色信号が灯っている時です。生徒の姿から直接わかることと同じくらい、生徒のいない教室からは多くのことがわかりました。

金曜日に身体測定がありました。どの検査会場においても、生徒たちは落ち着いていました。行儀よく列を作って並び、静かに順番を待っています。おしゃべりが我慢できずにこそつとしゃべってしまった姿はあっても、周りに不愉快さ与えたり検査をじやまするようなことは全くありませんでした。

私はそういう姿を確かめながら、生徒たちのいない教室を見て回りました。机椅子が整えられ、美しく整理整頓された教室がたくさんありました。担任の指導が入っているからなのか、それとも、生徒たちが主体的に判断して整理整頓を実践した結果なのか、それはわかりません。しかし、落ち着いて検査を受けている生徒たちの実際の姿と教室の整理整頓がおおむね比例していたのは事実であり、大変うれしくなりました。

さあ、「そこで」です！生徒の皆さんと職員たちには、校長が褒めてくれたからと満足せず、あえて自分たちのクラスはどうだったかを見直してほしい。私はそう思っています。

私は、「何年何組の教室が美しかった」

と、具体的に言及していません。「おお

むね比例」と言っただけで「全学級完ぺ

きだった」とは言っていません。自分の

学級はどうであったのか、さらには、自

分はどうであったのかを、生徒も担任も

見つめ直してほしいのです。おおよその

評価で満足せず、「自分（たち）はどう

だったのか」と謙虚に考えてほしいので

す。あなた（の学級）は「完璧」だった

のかな。（四月十二日 記）

